

1月のことば

学び① ～真似る（その2）「微細運動あそび」

お正月には、凧・こま・双六・お手玉等の遊びが思い浮かびます。

これらを上手に楽しむ為には、幾度か失敗を繰り返し、微妙な力加減や、わずかな違いを知り、その手順等これらを見て真似る（学ぶ）能力が養われます。

これら昔の日本の子ども達がしていた幼少期の微細運動あそびは、人の動きや物の形状を見て真似る（学ぶ）能力が養われます。

「まなぶ（まねぶ）ことが日本の強さである。」ということは、歴史を紐解くと一目瞭然。例えば…

1、戦国時代末期

スペイン・ポルトガルは大航海・冒険と称し、銃を持たぬ有色人種の国を次々と征服。しかし、日本は流れ着いた鉄砲を見て真似て造る。更に大量生産の方法や戦術を工夫。わずか30数年後、信長や秀吉の軍隊は世界最強となり、日本侵略は断念される。

2、江戸時代

西洋より日本や中国に“時計”が届く。中国は王宮に“時計の部屋”を作るも自ら造ろうとせず。しかし、日本はすぐ分解して「和時計」を造り、逆に価値を生み出す。

3、幕末～明治

近代化した欧米列強国が帝国主義に突入。東洋まで触手を伸ばし次々と植民地化。事がないということである。もちろん、家庭で他の人の話をする時もそうである。

家庭において「校長」「教頭」「園長」等と呼び捨てにしている所では、真の学びなく。学んだと思っているのは、表面のメッキ部分のみとなる。

つまり、「敬う心 → 憧れ → 真似る → まねぶ → 学ぶ」とつながっていく。

年末の、頭の整理整頓なり也。

*魅力とは…接する人の心、気持ちを強くとらえ、ついにとりこにさせるような素晴らしさ…